

私の中の二人の自分

小 六

去年、私のクラスでちよつとしたいじめがありました。最初は、何をしているのか気付きませんでした。しかし、だんだんとそれが目立ってきました。

一部の子は、その子の体にタッチして、「○○のきんだ。」

と言って、みんなにその手をつけて回していききました。おにごっこだと思って見ていると、私にある子が手をふれて、

「それ、○○きんだよ。」

と言いました。私はおどろきました。みんながそんなことをして遊んでいるとは思いませんでした。すごく複雑な気持ちになりました。そして、その中には、

私の友達もいたので本当にびっくりしました。

その子は、確かに特ちよう的だけど、その子を標的にして楽しむのは、あんまりじゃないかと思いました。でも、私人では勇気が出ず、心の中でずっともやもやしていました。遊んでいる子の中には、友達もいるし、私が先生に言うところ「チクった。」と言われそうな気がしたからです。

給食配ぜん室で、私が食器をもどしているとき、一人がその子をけりました。その子は、

「痛い！」

とさけびました。見ているだけで胸が痛くなつて、決心しました。私は、私と同じくそれに気付いている友達と三人で先生に話しました。

少しきん張したけれど、今では先生にそのことを言えて本当によかったと思います。そして、このいじめは、解決しました。

私は、この事実を先生に言うまで、すごく心がもやもやして、どうしようか迷っていました。よく公共の場に「見ていただけでもいじめ」というポスターがはってあります。私は、知っていることを見て見ぬふりをするのが嫌いです。しかし、そのときの私は「もし先生に言ったことが、みんなに伝わって反げきされたらどうしよう。その子のために、自分がぎせいになるの？」とも思いました。

私の中には、二人の自分がいます。一人は正しい自分。もう一人はまちがった自分です。私がもやもやしていたのは、その二人の自分のどちらがよいのかと

いうことでした。自分にはにげて助かるのか、相手を助けるのか。でも、今の自分には自信があります。その子を助ける勇氣もあります。

「もやもやしないで正しい道を選んだ方がいい。」

「チクったなんて言わせない。」

「自分たちがやっている行動は、本当に楽しいだけの遊びなのか、分かってもらわないと。」

私は、あのとときの自分にそう言いたいです。